

2008年度 SR会計報告

イオンモールでは2002年度よりSR(Social Responsibility=社会的責任)会計を導入し、環境保全活動や社会貢献活動のコストを定量的に把握し、CSR経営の指標のひとつとしてきました。2007年度については年度途中の合併により会計基準が一本化されていなかったこと、モールのメンテナンス企業との委託内容が異なるなどの事情があり、単純に今年度と比較する

ことはできませんが、傾向を把握するために掲出しています。

2008年度は投資額、費用のいずれもSR会計導入後の最高額となりました。投資額は8億7,109万円増えて19億973万円。地球温暖化防止のため、新店での省エネ対策に7億7,873万円を投資したのが最も大きな要因です。費用は、前年を7億2,589万円上回る44億9,585万円となりました。

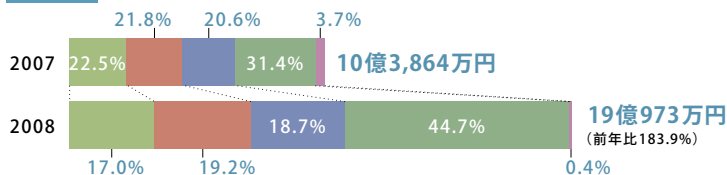
本年度より事故・緊急時対応に消火器・警報機設置費用として2億4,172万円を新たに計上しました。またハイブリッド照明関係をCO₂削減のため既存SCへ導入開始し、9,880万円を計上しました。

今後も投資効果や技術開発の動向を把握・検証しながら、高効率の省エネ設備の導入や自然エネルギーの導入検討を行います。

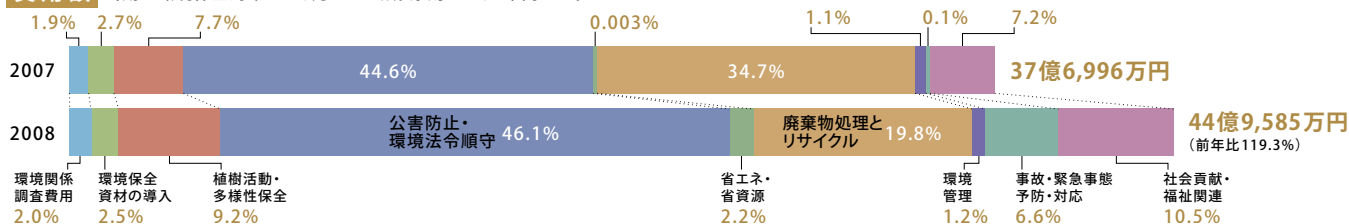
環境保全コストの主な内訳

	投資			費用			(単位:千円)
	2007	2008	前年比	2007	2008	前年比	
環境関係調査費用	—	—	—	71,152	90,536	127.2%	大店立地法のための調査、交通量調査等
環境保全資材の導入	233,486	324,232	138.9%	103,276	110,435	106.9%	投資/リサイクル建築資材など 費用/エコ消火器、再生OA用紙など
植樹活動・多様性保全	226,737	366,820	161.8%	291,926	414,445	142.0%	投資/植樹祭、屋上・壁面緑化 費用/育樹祭、植栽管理等
公害防止・環境法令順守	213,776	357,000	167.0%	1,681,833	2,072,588	123.2%	投資/厨房除害施設、浄化槽中水利用 費用/大気汚染防止、水質汚濁防止
省エネ・省資源	325,942	854,044	262.0%	112	98,794	88446.1%	投資/LEDサイン、太陽光発電ほか 費用/文具リユース、節水機器導入
廃棄物処理とリサイクル	—	—	—	1,308,220	887,968	67.9%	廃棄物処理・管理費用
環境管理	—	—	—	41,062	53,722	130.8%	ISO推進、事務局運営、情報発信
事故・緊急事態予防・対応	—	—	—	2,289	294,678	12874.2%	地下タンク検査、オイル吸着マットなど
社会貢献・福祉関連	38,700	7,633	19.7%	270,087	472,685	175.0%	投資/身障者用駐車場、バルーンシェルター 費用/イオン1%クラブ拠出金ほか
計	1,038,641	1,909,729	183.9%	3,769,957	4,495,851	119.3%	

投資額 償却資産への設備投資のうち、環境保全目的の支出。効果は長期に及ぶ。



費用額 当期の環境保全対策として発生した額。原則として1年間のみ。



期間：2008年2月21日～2009年2月20日(2007年2月21日から2007年8月20日までの旧ダイヤモンドシティの金額は計上していません)

対象：イオンモール(株) ISO14001適用範囲内とする

- ①複合コスト・・・環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。
- ②人件費・・・イオンモール従業員の人件費は原則として計上していません。ただし、「モール施設メンテナンス」、「モールでの廃棄物処理とリサイクル」は人件費を計上しています。
- ③投資・・・期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額で計上しています。(リース契約の場合は、費用に計上) 導入後、移管もしくは変動したのもも導入時の金額が判明している場合は投資として計上しています。



当連結会計年度におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発する世界的な金融不安が深刻さを増したことで、企業収益の減少や雇用情勢の悪化が顕著となりました。このような状況下にあっても当社は、本冊子でご報告しておりますとおり、ショッピングセンター(SC) 専業ディベロッパーのノウハウを発揮して競争力あるSCづくりを推し進め、20期連続の増収増益を達成しました。

当期の営業収益は340億700万円増加の1,308億1,300万円(対前年同期比135.1%)に達しました。これは既存SC(25SC) ベースで前連結会計年度と比較し3億6,600万円増加の656億5,200万円(同100.6%)、2007年8月21日付の株式会社ダイヤモンドシティとの合併による増加が270億6,400万円、新規SCの寄

与による増加88億1,500万円によるもので、2008年2月21日付で保険代理店事業を分割したことによる22億3,900万円の減少をカバーしました。

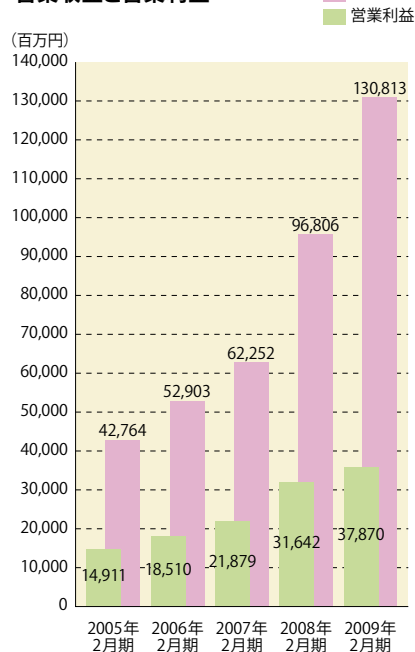
販売費及び一般管理費は、株式会社ダイヤモンドシティとの合併による増加に加え、新規開発物件や中国におけるSC事業展開に向けた取組みなどにより17億7,200万円増加の105億2,600万円となりましたが、営業利益は62億2,700万円増加し、378億7,000万円(対前年同期比119.7%)となりました。

特別利益は、イオン保険サービス株式会社への保険代理店事業分割に伴う持分変動利益4億4,700万円に加え、匿名組合出資清算益5億3,200万円、鳥取グリーンシティの土地売却に伴う未払土地

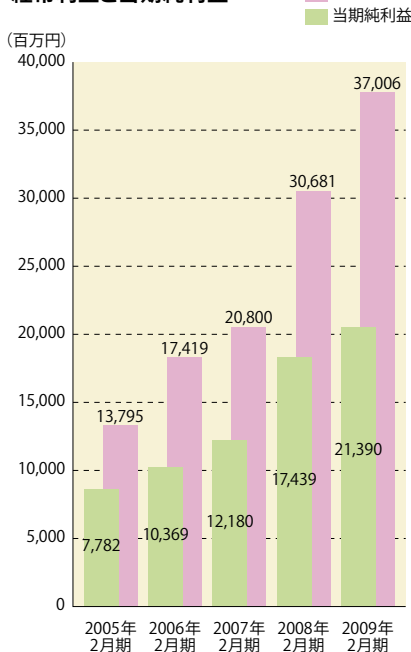
特別保有税戻入益2億7,700万円など、13億3,400万円を計上しました。

特別損失は、既存SC増床・リニューアルなどに伴う固定資産除却損13億2,000万円、減損損失13億1,200万円などにより27億1,900万円を計上、前連結会計年度より45億2,700万円の減少となりました。これらの結果、当期純利益は39億5,000万円増加の213億9,000万円(同122.7%)となりました。

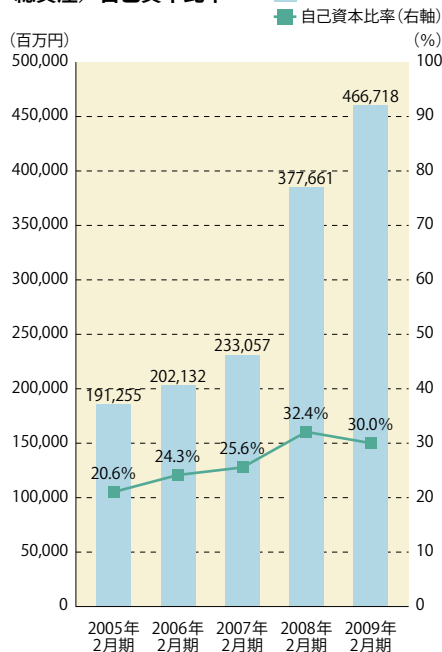
営業収益と営業利益



経常利益と当期純利益



総資産／自己資本比率



外部評価

これまでにご紹介したほかにも、イオンモールの取り組みは各方面から高い評価をいただいています。

FTSE4Good指数シリーズに 5年連続で選定

FTSE4Good指数シリーズとは、環境保全、ステークホルダーとの関係、人権への配慮の3つの観点から企業を評価する世界的な社会責任投資(SRI)指標のひとつです。2009年3月の見直しで、5年連続で組み入れられました。



日経『企業の環境経営度調査 (倉庫・不動産・その他部門)』：2年連続第1位

国内7カ所で重油を使った自家発電を停止し、温暖化係数の低い電力購入に切り替えたことなどが高く評価されました。特に「環境管理体制」「温暖化対策」の項目では最高点の100点を獲得しています。

千葉県より「男女共同参画推進優良事業者」として表彰

最長3年間の育児休暇、勤務時間短縮など法律を上回る制度を整備。制度を利用しやすい環境づくりにもつとめていることが評価されました。

●(財)日本産業デザイン振興会『グッドデザイン賞』： イオンモール羽生

商業施設として初めての受賞となります。すべての人にとって使いやすく、かつ空間を楽しく彩るサインなどが評価されました。



●宮崎市 だれもが住みよいまちづくり賞『優秀賞』： イオンモール宮崎

バリアフリーデザインが建築物のデザインに溶け込み、障がい者や高齢者などが利用しやすい施設であると評価されました。

●織研新聞社 ディベロッパー大賞『イノベート賞』： イオンモール岡崎

SCの開発手法や施設運営のあり方、競争力を保つための新しい仕掛けなどが評価されました。

●クリスマスチャリティ募金で日本ユニセフ協会より感謝状

2005年より毎年実施してきたクリスマスチャリティ募金。2008年は全SC、各事業所で約1,840万円をお預かりしました。



日本赤十字社の「献血サポーター*」として貢献



献血サポーター

イオンモール株式会社は全国のショッピングセンターで「献血サポーター」として日本赤十字社の献血推進を応援しています。

2008年12月までに全国のイオンモールで実施された献血活動は延べ774回、受付者延べ人数は43,103名さまに達します。イオンモール株式会社は全国のショッピングセンターで献血に積極的に協力する「献血サポーター」として、日本赤十字社の献血推進を応援しています。

*献血サポーターとは

日本赤十字社では医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力していただける企業・団体のことを「献血サポーター」と呼んでいます。

